

BRTによる復旧での目指す姿と検討すべき項目（JRご提案）

目指す姿	刷新感（＝地域の方・お客様にとって『良くなった』『乗ってみたい』と 思っていただける）のあるBRT
観点	計画策定時に検討すべき具体的項目
速達性 定時性	PTPSの導入、快速便の設定
	バス専用道・専用レーン・優先レーンの設置の検討
利便性・ サービス	運行本数（被災前鉄道比1.5倍）、運賃、IC導入、他線区の列車との接続、 停留所の配置、バスロケーションシステム、待合所の仕様、 既存の路線バス等との連携、バス車両の種類、車両サイズ、環境性能 等
未来感	沿線ブランディング、自動運転・隊列走行の検討

＊「目指す姿」が実現できるよう、各項目において具体的な整備水準等を協議し計画案に盛り込むものとする

沿線住民アンケート

重要視するサービス要素の割合

n = 2,217

移動が安全・安心である	75.7%
山陽新幹線や山陽線、山陰線と接続している	75.6%
乗継の待ち時間が短い	75.1%
居住地・目的地の近くで乗降できる	73.6%
移動したい時に移動できる(運行本数が多い)	73.0%
発車、到着の遅れが少ない	71.4%
安く利用できる	69.7%
交通系ICカード等のキャッシュレス決済が使える	69.7%

※複数選択可

運休が少ない	69.1%
身体的負担が少なく利用できる	65.9%
短い時間で目的地に着く	63.9%
車内空間が広い	52.3%
車窓から見える景色が良い	47.0%
遅れや走行位置が分かる	41.9%
荷物を置く場所がある	41.8%

 は美祢線に比べ改善する項目

BRTによる復旧での目指す姿と検討すべき項目（JR叩き台）

目指す姿		刷新感（＝地域の方・お客様にとって『良くなった』『乗ってみたい』とっていただける）のあるBRT	
観点	実現 したいこと	計画策定時に検討すべき具体的項目	素案イメージ （ ）内は費用面あるいは技術面での検討を要するもの
速達性 定時性	時間通りの スムーズな移動	快速便の設定、交通信号の改良（PTPS導入）	快速便については鉄道と同程度を実現（鉄道より速達を目指す） 参考：鉄道 厚狹～美祢 27分・厚狹～長門市 62分
		バス専用道・専用レーン・優先レーンの設置の検討	（費用対効果を勘案し整備箇所を検討）
利便性 ・ サービス	使いやすいダイヤ	ダイヤ・運行本数・JR路線との接続	・運行本数については快速便を含め、鉄道の1.5倍（14往復程度） ・平日、土休日それぞれダイヤを設定 ・山陽線、新幹線、山陰線の順に可能な限り接続を確保
	鉄道との 高い親和性	運賃制度・連絡乗車券の設定・JR時刻表等への掲載	・鉄道と同程度の運賃（既存の路線バス運賃との調整） ・周辺線区との通し運賃の設定、連絡定期券の発売（JR西管内） ・大型時刻表、路線図、乗換検索等への掲載
	バリアフリー	誰もが利用しやすい設備や車両	・美祢線に比べ、バリアフリーに適した設備や車両の導入
	快適な設備・車両	乗降場所の仕様・バスの車種	・乗降場所については、上家、箱型等の快適な空間を目指す ・（大型、中型、観光特化型車両等を組み合わせた運行）
	柔軟な経路・停留所	運行ルート・乗降場所の位置	・普通便と快速便のルートを別々に設定 ・ニーズに応じた乗降場所の選定：温泉駐車場、高校近傍等
未来感	美祢線に なかった便利な機能 ・ DXの活用	車内や乗降場所での交通情報提供 運賃支払い方法の多様化 車内USB（充電ポート）・Free Wi-Fi	・バスロケーションシステムによるBRT運行情報の提供 ・交通系ICカードによる支払い ・（クレジットカードや二次元コード等による支払い） ・（車内でスマホの充電やWi-Fiが利用可能）
	未来に資する取組み	将来的な自動運転や隊列走行導入を目指した実証実験の実施	（実施区間等の検討）
まち づくり	優れた環境性能	美祢線より環境性能を改善	（EVバス、バイオ燃料等の導入による脱炭素社会の実現に貢献）
	地域との一体感	車両や乗降場所のデザインの一体化によるマイBRT意識醸成	（地域を巻き込んだデザインプロデュースにより、沿線のまちづくりと調和したデザイン・ブランディングを志向）
まち づくり	まちづくりとの調和	美祢駅・長門市駅周辺整備事業との調和・整合性	（アクセスしやすい乗降場や他の公共交通機関との結節性向上）